

## 平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

子どもたちの豊かな人間性と社会性の発達を願い、自立と社会参加及び貢献に向けて、一人ひとりに応じた教育を行う。

- 1 人権を尊重し、安全で安心して学べる学校づくりを進める学校。
- 2 個の教育的ニーズに応じた専門的な指導を行う学校。
- 3 障がいに対する認識を深め、社会参加に必要な知識と技能の習熟を図る学校。
- 4 聴覚障がい教育における今日的課題についての研究に取り組み、専門性の向上を図る学校。
- 5 聴覚障がい教育のセンター的機能を充実させる学校。

## 2 中期的目標

- 1 人権を尊重し、安全で安心して学べる学校づくりを進める。
  - (1) PTA、地域及び関係機関と連携し防災等の対策の充実を図る。
  - (2) 施設設備の安全点検とともに、校内安全体制の再構築し、幼児児童生徒への安全教育を進め、事故発生を未然に防ぐ。
  - (3) 校長、教頭、生活指導部長、各学部主事、養護教諭で構成する校内委員会を定期的に関開き、生活指導・生徒指導上の課題及びその背景の把握に努める。関係機関と連携を取りケース会議を実施し、早期対応に努める。
- 2 個の教育的ニーズに応じた専門的な指導を行う。
  - (1) 個に応じた学習指導  
幼児児童生徒の実態把握を行い、学習グループを編成し、一人ひとりの課題に応じた指導を行う。
  - (2) 個別の教育支援計画、個別の指導計画の作成  
家庭訪問、懇談等で保護者のニーズを把握し、個別の教育支援計画、個別の指導計画を作成し指導する。
  - (3) 研究授業の実施と研究協議の在り方の検討  
研究授業は年間計画をたて、全校で公開とし、相互評価とともに、外部講師からより専門的な助言を受け指導力の向上に努める。
- 3 障がいに対する認識を深め、社会参加及び貢献ができるよう必要な知識と技能の習熟を図る。
  - (1) 本校作成の自立活動プログラムを実施し、障がいによる学習上または生活上の課題を改善する。
  - (2) 幼稚部・小学部・中学部・高等部を通してのキャリア教育の充実を図り、それぞれの年齢に応じた働きかけをすることでキャリアを形成する。
  - (3) 生徒一人ひとりが自己の能力・適性を正しく理解し、進路選択をする力をつける。  
自己を理解し自らの力で生き方を選択していける力を育成する。
  - (4) 放課後活動の充実を図り、生徒の自主性、協調性、責任感、連帯感等を育成する。
- 4 聴覚障がい教育における歴史および今日的課題についての研究に取り組み、専門性の向上を図る。
  - (1) 全教員で校内研究会および研究活動グループによる研究活動に取り組む。
  - (2) 新転任者を対象に聴覚障がい教育についての基礎研修会を実施する。
  - (3) 聴覚障がい教育の歴史・史料の整理と保管に努める。
- 5 聴覚障がい教育のセンター的機能を充実させる。
  - (1) 地域の学校園からの聴覚障がいに関する相談に適切な支援を行う。
  - (2) 早期からの教育相談における保護者支援を充実させる。
  - (3) 通級指導教室の児童生徒への指導方法の充実と在籍校との連携の在り方を検討する。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 29 年 1 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>○幼～高の保護者、小～高の児童生徒、教職員を対象に実施 (%)</p> <p>【児童生徒】 学校は楽しいですか：全体 93、小 100、中 89、高 90 担任以外に話ができる教員がいる：全体 88、小 83、中 78、高：100 入学してよかった：全体 88、小 100、中 72、高 90 ⇒充実した学校生活を過ごしていることがうかがえる。 「将来の夢や目標を持っていますか」：全体 79、小 78、中 72、高 86 が低く、発達段階に応じたキャリア教育等の推進が必要である。</p> <p>【保護者】 ・子どもは行事を楽しみにしている：95 ・保護者の行事参加の経験：100、子どもは楽しく学校に通っている：97 ・生活指導等で学校と連絡し対応している：93 どの項目においても概ね高ポイントを得ている。進路に関する情報提供：74、進路への不安や希望に関する聞き取り：75 となっており、進路指導の工夫が必要である。</p> <p>【教職員】 手話等コミュニケーション力の指導の必要性は 100 となっており、高い意識がある。キャリア教育も 89 であるが、児童生徒等の結果と齟齬があり、効果的な取組みを検討する必要がある。</p>	<p><b>第 1 回 (5 月 20 日) 【学校経営計画について】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学部の進路、新転任者対象の研修会、学校評価のアンケート、保護者のニーズ等についての質問。</li> <li>・地域の防災、同じ地域にある学校として協力して取り組みたい。</li> <li>・防災に関し学校内の安全確認も日々行い、改善してほしい。</li> <li>・進路に関し卒業生の実績などデータベースがあれば保護者にも教えてほしい。</li> <li>・合理的配慮について適切にできているのか、授業構築も含めて、自己点検も視野に入れて取り組んでほしい。</li> <li>・府移管に伴う業務などが負担にならないように、教育活動の充実を図り、より良い学校づくりをお願いしたい。</li> </ul> <p><b>第 2 回 (10 月 27 日) 【中間評価について】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・防災に関して、鳥取地震の際の学校の状況等について。</li> <li>・個に応じた指導に関して、復籍の取り組みについて。</li> <li>・地域の学校との交流体験は良かった。続けてほしい。</li> <li>・進路選択に関して、指定校推薦について。</li> <li>・ほぼ計画通りに進んでいるという評価で、継続して取り組みの達成を期待している。</li> </ul> <p><b>第 3 回 (2 月 24 日) 【最終評価について】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリア教育の取り組みを一層進めてほしい。</li> <li>・文化祭など地域の人にも見てもらい、一層の開かれた学校づくりをしてほしい。</li> </ul>

## 府立中央聴覚支援学校

・より充実した教育活動の推進、地域との連携に取り組んでほしい。

3 本年度の取組内容及び自己評価 ※ 最終評価基準 (◎) 目標を上回って達成した。 (○) 目標どおりに達成した。 (△) 取り組んだが目標を達成できなかった。 (×) ほとんど取り組みず目標も達成できなかった。

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 人権を尊重し、安全で安心して学べる学校づくりを進める。	(1) 防災対策の充実を図る。	(1) ア 専門家からの助言を受け避難訓練(火事、地震、津波)を実施する。 イ P T Aに周知し、区の防災訓練に参加する。 ウ 幼児・児童・生徒の備蓄用の水、食料を学校で保管し、定期的に家庭に持ち帰らせ、点検・交換を依頼する。 エ 緊急時文字情報システムを構築し、緊急時の連絡体制を周知する。 オ 安全器具を設置し施設整備の充実を図る。	ア 年間3回以上避難訓練を実施する。 イ 年に1度の区の防災訓練に参加する。 ウ 学期末に家庭に持ち帰り点検・交換をする。 エ 避難訓練時に保護者への引き渡しをシミュレーションする。 オ 子どもや保護者の安心感を70%以上にする。	(生指) ア 訓練の実施は設定時間等を事前に周知しない等を工夫し実施した。結果、防災に対する意識向上が図られた。(◎) イ 中央区の防災講演会に参加した。(○) ウ 備蓄用の水・食料を学校で保管している。(○) エ 防犯マニュアルの配付を行った。(○) オ 月に1回、安全点検を実施した。子どもや保護者へのアンケートでは安心感が80%を超えた(○)
	(2) 通学時の安全指導を実施する	(2) ア 登校時、6カ所に教職員が立ち、児童・生徒の登校を見守り、安全指導を行う。 イ 小学部は、地下鉄の駅まで教員が引率し、集団下校を行う。 ウ 放課後及び休日の部活動の登下校の安全対策を構築する。	ア 全教員が年間約3回登校安全指導当番をする イ 交通安全指導を年3回以上実施する。 ウ 子どもや保護者の安心感を70%以上にする。	(生指) ア 教職員全体で朝の安全指導に取り組んだ。(○) イ 下校指導を毎日行った。(○) ウ 放課後や休日の部活動の登下校の安全指導を実施した。子どもや保護者へのアンケートでは安心感が80%を超えた(○)
	(3) 問題行動の早期発見・対応に努める。	(3) ア 校内委員会を定期的(隔週に1回)に実施し、各学部の幼児児童生徒の様子を俯瞰する。必要に応じてケース会議を実施し、組織的な対応に努める。 イ 関係機関との連携、専門家を活用し、幼児児童生徒理解を深め、予防的・早期対応に努める。	ア 隔週に1回実施し、会議録の作成・保管を行い情報を共有する。 イ 校内委員会、ケース会議で臨床心理士の助言を受ける。	(生指) ア 校内委員会を実施し、幼児・児童・生徒について情報を共有した。結果、各部の現状等を把握でき、組織的に対応していこうとする意識が向上した。(◎) イ 1学期末から臨床心理士を招き、助言やカウンセリングを行った。(○)

## 府立中央聴覚支援学校

2 個の教育的ニーズに応じた専門的な指導を行う。	<p>(1) 個に応じた学習指導 幼児児童生徒の実態把握を行い、一人ひとりの課題に応じた指導を行う。</p>	<p>(1) ア 各学部で実態把握の方法を検討し、必要に応じて発達検査、学習に関する検査(読み書き、計算)を実施する。</p>	<p>ア 各検査の結果の検討を行い、速やかに個別の指導計画に反映させる。</p>	<p>(教務) ア 幼児児童生徒の観察や聞き取り、レディネスチェック、体験入学等を元に学習グループを編成し、学力向上に努めた。また、各種検査の結果をまとめて個別の指導計画に記載し、幼児児童生徒の実態把握の参考資料として活用するとともに、授業の様子や定期考査等を元に、教科会、授業担当者会を開き、理解度の確認や情報交換に努めた。 (○)</p>
	<p>(2) 個別の教育支援計画、個別の指導計画を作成し指導する。</p>	<p>(2) ア 家庭訪問、懇談等で保護者のニーズを聴き取り、個別の教育支援計画、個別の指導計画を作成する。個別の指導計画は学期ごとに評価し、次学期の指導計画作成に活かす(PDCAサイクル)。  イ 個別の教育支援計画、個別の指導計画をデジタルデータ化し、引き継ぎ資料作成の効率化を図る。</p>	<p>ア 5月末までに家庭訪問、懇談会を実施し、ニーズを聴き取る。年度末の保護者アンケートで保護者の満足度を70%以上とする。  イ 年度末に次学年、次学部への引き継ぎ会議の資料をデータでやり取りすることにより、作成時間を短縮する。</p>	<p>(教務) ア 家庭訪問や個人懇談を実施して保護者のニーズの把握に努め、作成を進めた。幼小は懇談会等で個別の指導計画を活用した。中高は学期末に家庭に持ち帰らせ、保護者との共通理解を図った。小学部では様式を改善し次年度へ引き継いだ。保護者アンケートによる満足度は90%以上であった。 (◎)  イ 個別の教育支援計画のデジタルデータ化は、3年計画で順次移行を進めた(今年度は2年目)。個別の指導計画は様式を見直し、本年度よりすべてデジタルデータ化し、作成を進めた。PCを活用したデータ入力により業務効率が上がると同時に、全教員が個別の指導計画の内容を共有できるようになった。 (○)</p>
	<p>(3) 研究保育・授業の実施と研究協議の在り方の検討</p>	<p>(3) ア 研究授業は年間計画を作成し、全校に公開とする。 イ 分かりやすい授業実践に取り組む。</p>	<p>ア 全校で30回の研究授業を実施する。 イ 授業チェックシートで授業の評価をし、研究協議の資料とする。</p>	<p>(研究) ア 研究保育・研究授業を30回行った。(○) イ 授業チェックシートを用いて、評価内容を明確にしながら、研究協議を行った。(○)</p>

## 府立中央聴覚支援学校

3 障がいに対する認識を深め、社会参加・貢献に必要な知識と技能の習熟を図り、生徒の自主性、協調性、責任感、連帯感等を育成する。	(1) 本校作成の自立活動プログラムを活用し、障がいによる学習上または生活上の課題を改善する。	(1) ア 自立活動における各分野のスタンダードモデルを収集・活用し、実践力の向上を図る。  イ 多様な芸術体験活動を通し、豊かな表現力を身につける。	ア 学期ごとに見直し、更新する。  イ 年に1回芸術体験活動を実施する。	(自立活動委員会) 自立活動事例集の有効活用に向けて、事例集のデータを整理した。冊子にまとめたものを各部に配付するとともに、各学部で自立活動に重点を置いた公開授業を行い、自立活動プログラムとの関連を示す場として、自立活動学習会を実施した。参加者アンケートでは、「よかった」「とてもよかった」の意見が概ね100%を占めていた。(○)  (情報) 10月25日に「影絵人形劇団むむのこ」による鑑賞会を実施した。幼児児童生徒、教員のアンケートで「よかった」との回答が75%以上であった。次年度も同様に実施するよう計画している。(○)
	(2) 幼稚部・小学部・中学部・高等部を通してのキャリア教育の充実	(2) ア 各学部で本校のキャリア教育プログラムによる授業実践をまとめ、全校におけるプログラムの一貫性の検討を行う。 (例) 幼稚部 お手伝い 小学部 社会見学 中学部 職場体験、大学体験 高等部 職場実習、大学体験  イ 他府県の「技能検定」について研究し進路指導の充実を図る。	ア 授業実践を各学部1例以上まとめる。キャリア教育委員会でそれをデータベース化し、一貫性を重視したキャリアプログラムの作成を行う。  イ 個々の「教育支援計画」に反映させ、進路指導に生かす。	(キャリア委員会) ●幼稚部：「幼稚部年間計画の検討」を行った。(○) ●小学部：社会見学や体験学習を各学年で進め、さまざまな職業やその内容について学習した。(○) ●中学部：通常の学習のなかで、社会に出たときに必要なモラルやマナー、コミュニケーションについて考えたり、他者の考えや立場を理解し尊重する態度の育成に努めている。(○) ●高等部では、キャリア教育年間計画の内容を、自立活動の授業を通して、学年別に社会に出る前の知識やマナーとして指導した。(○) ●キャリア教育委員会では、隔月に委員会を開催し、委員会のメンバーで研修会を2回行った。更に、キャリア教育にかかわる事例を紹介する校内通信を2回発行した。また、「キャリア教育プログラム」の内容を改定し、H29年4月に配布する。(○)

## 府立中央聴覚支援学校

<p>3 障がいに対する認識を深め、社会参加・貢献に必要な知識と技能の習熟を図り、生徒の自主性、協調性、責任感、連帯感等を育成する。</p>	<p>(3) 生徒一人ひとりが自己の能力・適性を正しく理解し、進路選択をする力をつける。</p>	<p>(3) ア 職場開拓、大学訪問を計画的に行い進路の選択肢を広げる。</p>	<p>ア 指定校推薦入学等の新規開拓を行う。目標2校</p>	<p>(進路) ●中学部： 6月に本校卒業生を招聘して進路学習会を行った。中学部2年生は7月～8月にかけて職場体験を行った。各自コミュニケーションの方法を工夫し、仕事に集中して取り組むことができた。中学部3年生は本校高等部、だいせん高等聴覚支援学校をはじめ、府立の公立高校の見学会や体験に参加した。進路希望調査(第1回目を5月、2回目を9月、3回目を12月)を行った。進路だよりを発行し、入試スケジュール等進路に関する情報提供をおこなった。また生徒個々に合った進路選択を行えるように進めることができた。(○) ●高等部：大学進学希望生徒については、個々にオープンキャンパスに参加させ、情報保障等の状況をつかませ進学指導を進めた。特進コースの生徒だけでなく、他の生徒たちにも影響し、大学進学希望者7名が全員合格した。また、1年生を中心に同志社大学の授業体験を計画し、大学での情報保障の現状を体験することができた。指定校推薦1校。進路への適正を考えるさせることを目的に、本科2年生・専攻科1年生全員に職場実習を体験させた。就職希望生徒については、生徒の適正を考え計画的に職場開拓を進めた。(○)</p>
	<p>イ 各種検定、資格試験を計画的に受験を勧める。 小学部「漢字検定」 中学部「漢字検定」「英語検定」 高等部「漢字検定」「英語検定」「ビジネス文書実務検定」「全商情報処理検定」「全商簿記実務検定」「全商珠算・電卓検定」</p>	<p>イ 児童・生徒が有している「級」を次の段階にあげる。</p>	<p>(各部) ●小学部：年に1回漢字能力検定を行っており、今年度は2月に行った。2学期末に受検の案内を行うことで、児童の学習意欲を高めた。(○) ●中学部： 英検4級に1名、5級に5名が合格。漢検3級に3名、5級に1名、6級に1名が合格した。(○) ●高等部： 英検2級1名、5級1名、ビジネス文書実務検定1級1名、2級8名、3級10名、4級9名(内4名は生活応用コース生)珠算電卓検定3級2名、簿記実務検定3級2名、情報処理検定3級4名、2級3名、漢字検定3級1名、準2級1名の合格者を出した。(○)</p>	

## 府立中央聴覚支援学校

<p>3 障がいに対する認識を深め、社会参加・貢献に必要な知識と技能の習熟を図り、生徒の自主性、協調性、責任感、連帯感等を育成する。</p>		<p>ウ 進路学習会を実施し、関係機関の方や卒業生の話聞く機会を計画する。</p>	<p>ウ 年2回以上進路学習会を設定する。</p>	<p>(進路) 5月に1回目の進路学習会を実施。(卒業生の就職先である(株)ダイキンサンライズ摂津の前総務課長から、企業人としての心構え等の講話) 2月には、本校の卒業生3名を招き、情報保障のない時代に就職し人間関係を築いてきた、その心構えを話していただいた。また、本校から始めて筑波技術短大に進学した卒業生からは、今年大学進学する後輩にエールを送っていただいた。パネルディスカッション形式にしたことで、話が盛り上がり生徒たちにも好評であった。(○)</p>
	<p>(4) 部活動の充実を図り、体力の向上とともに、健康の増進を図る。</p>	<p>(4) ア 部活動が円滑に行われるよう環境整備に努め、運動に楽しむ能力や態度を育てる。</p>	<p>ア 生徒アンケートを実施し、有意義度を70%にする。</p>	<p>(生指) ア 目標を持って部活動を活発に行っている。近畿地区聾学校の大会や地区の大会に参加した。(○) 生徒アンケートを実施し、有意義度が90%を超えていた。</p>

## 府立中央聴覚支援学校

4 聴覚障がい教育における歴史および今日的課題についての研究に取り組み、専門性の向上を図る。	(1) 他府県の研究会へ参加し先進的な取組を学ぶことで、教員の資質向上を図り、校内研究会および研究活動グループによる研究活動の推進する。	(1) ア 先進的な取組例を研修会等で紹介し共通理解を図る。 イ 校内全体研究会を実施する。聴覚障がい教育の今日的課題を把握し、教育活動を進める。 ウ 月に一度の研究日に、全教員が研究テーマ別グループに分かれ、研究を進める。	アイウ 研修会、研究の成果を研究紀要にまとめる。	(研究) ア 他府県の研究会に参加し、本校の実践発表や、校内にて伝達講習を行った。(各部・全校) (○) イ 「合理的配慮」をテーマに年2回の校内研究会を行った。またテーマに基づいて各部が研究活動に取り組み、研究の成果を研究紀要にまとめた。(○) ウ 聴覚障がい教育における専門的な分野を7グループに分け、月に一度各グループで研究活動に取り組み、研究の成果を研究紀要にまとめた。(○)
	(2) 新転任者を対象に聴覚障がい教育についての基礎研修会を実施する。	(2) ア 新転任者を対象に研修を実施し、聴覚障がい教育の基礎を学ぶ機会とする。  イ 新転任者対象に手話研修会を計画し、手話力の向上を図る。	ア 新転任対象の研修を1学期中に7回実施し、聴覚障がい教育の基礎知識を習得を目指す。  イ 週に1回の手話研修を実施する。受講者へのアンケートで、「手話力が向上した」60%を目指す。	(研究) ア 新転任研修会を1学期に7回実施した。アンケートでは、内容について「とてもよかった・よかった」が97%を超えた。(○)  (管理職) イ 1年間通じて実施し、支障なく日常会話ができている。手話に興味を持ち、手話検定を受験する教員もいた。アンケートを実施したところ「手話力が向上した」と答えた教員は90%を超えていた。(◎)
	(3) 本校所有の全国的に希少な聾教育関係史料の整備を行う。	(3) ア 本校所有史料のデータベースを作成する。  イ 保管場所を検討し、閲覧者についても所属、名前、目的等の記録を残す。	ア 史料が散逸することのないように整理と保管に努める。	(研究) ア 1397枚の写真と234部の歴史資料を、付与した請求記号ラベルに従って整理し、保存箱に収納して史料データベースを構築した。またネガフィルムから4041枚の写真をデジタルデータ化する作業を行った。(○)  イ 保管場所は盗難・紛失防止のために常時施錠している。閲覧者を記録するための利用申込み書の雛形の検討を行った。(○)

## 府立中央聴覚支援学校

5 聴覚障がい教育のセンター的機能を充実させる。	<p>(1) 聴覚支援センターを中心に、地域の学校園からの聴覚障がいに関する相談に適切な支援を行う。</p>	<p>(1) ア 地域の学校園からの聴覚障がいに関する相談に適切な支援を行う。</p> <p>イ 聴覚障がいのある幼児児童生徒のデータベースを作成する。</p>	<p>ア 月に一度センター会議を実施する。 相談校教員にアンケートを実施する。「ニーズに応じた相談ができた」を80%とする。</p> <p>イ 地域に学ぶ幼児児童生徒の状況を把握し、適切な支援に努める。</p>	<p>(支援) ア 月に一度のセンター会議、週に一度の支援連絡会議を実施し、地域の学校園からの聴覚障がいに関する相談に応じた。 支援学級相談を実施した学校にアンケートを行った。「支援内容が希望にそっていた」と回答した学校が90%以上だった。(○) イ 聴覚障がいのある幼児児童生徒のデータベースの入力作業を行った。 大阪市内の支援学級相談では、訪問支援を実施し、小学生27名、中学生4名の在籍校に訪問した。(1月末現在)研修会(6件)、障がい理解授業支援(7件)へ講師を派遣し、相談・機器貸出など(3件)も行った。(○)</p>
	<p>(2) 早期からの教育相談における保護者支援を充実させる。</p>	<p>(2) ア 関係機関と連携し、早期教育相談における保護者支援を充実させる。</p>	<p>ア 関係機関を年1回以上訪問し連携に努める。保護者向け通信を毎月発行する。</p>	<p>(早期) ア 関係機関を訪問し、連携に努めた。(病院訪問4件、保育園訪問14件、療育園訪問2件)保護者向け通信を毎月発行した。(○)</p>
	<p>(3) 通級指導教室の児童生徒への指導方法の充実と在籍校との連携の在り方を検討する。</p>	<p>(3) ア 通級児童・生徒の実態を把握し、ニーズに応じて発音・言語・教科指導や聴覚学習に取り組む。</p> <p>イ 本校の運動会、文化祭などの行事への参加を勧め、本校児童生徒との交流の場とする。</p>	<p>ア 年1回以上交流の場を設定する。</p> <p>アイ 保護者にアンケートを実施する。満足度80%とする。</p>	<p>(通級) ア 小学部年7回、中学部年6回+文化サークルの交流を計画し、実施した。(○) 参加児童・生徒が固定してしまっている。 アイ 通級指導教室20名を指導。保護者対象にアンケートを行った。アンケートの結果、満足度はほぼ100%で、保護者のニーズに合った指導ができた。(◎)</p>
	<p>(4) 地域の学校園の教員対象の研修会等を実施し、聴覚障がい教育への理解啓発を図る。</p>	<p>(4) ア 地域の学校園に勤務する聴覚障がい担当教員、養護教諭対象に研修会を実施する。</p> <p>イ 聴覚に関する情報紙「みみネット」「みみより情報」を発信する。</p>	<p>ア 研修会、セミナーを年2回以上実施する。</p> <p>イ 情報紙を月1回以上発信する。</p>	<p>(支援) ア 「養護教諭セミナー」8/1実施：15名参加 「聴覚に障がいのある幼児・児童・生徒の担当教員研修会」8/3実施：32名参加 「みみネットアカデミー」12/22実施：10名参加(○) イ 「みみネット」を大阪市立、守口市立の学校園に月1回発信した。 「みみより情報」を保護者、教職員対象に月1回発信した。(○)</p>